

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和5年度（高等学校2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 5 学年 A 組～ D 組

使用教科書： （ 家庭基礎 自立・共生・創造 （東京書籍） ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基本的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造し実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動 生涯を見通す 人生100年の計画 人生をつくる 日本の現状 (結婚・子ども・収入・高齢者) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、現状を把握し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、家庭生活や地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	20
	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済生活を営む 働くということ 自立と社会保障 購入と契約 消費生活と課題 	<ul style="list-style-type: none"> レポート ワークシート プレゼンテーション グループワーク 	○	○	○	10
	<ul style="list-style-type: none"> 自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 住生活をつくる 安全で快適な住まい これからの住生活 		○	○	○	5
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとともに育つ 子どもの発達 子どもと遊び 子どもとの触れあい (保育実習) これからの保育 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した食生活を営むために必要な知識や技術を身につけている。 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	17
	<ul style="list-style-type: none"> よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 配膳やマナーに関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活 栄養・食事摂取基準 食品の安全・課題 調理実習 (4～5回) 	<ul style="list-style-type: none"> レポート ワークシート プレゼンテーション グループワーク 	○	○	○	18